

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

2012年度 プロジェクト・サポーター・プログラムによる活動報告書

募金総額: 22,391,000円

募金件数: 9,615件

対象期間: 2011年10月1日～2012年9月30日

プロジェクト・サポーターの皆さまのご協力により、アジアやアフリカで、妊産婦死亡率や乳幼児死亡率の高い地域において、母子保健サービスの強化の支援を行っています。また、アゼルバイジャンでは、社会参加の可能性を閉ざされた障がい児への教育支援を行うことができました。感謝とともに、報告させていただきます。

妊産婦やお母さん、赤ちゃんのための支援

カンボジア

支援地域の状況

カンボジアの5歳未満児死亡率は出生1,000件あたり51人ですが、この率は地方に行けばいくほど高くなります。また、妊産婦死亡率(出生10万件あたりに生じる死亡数)は、540人に達しています(日本では6人)。

支援地域であるコンポンチュナン州では、出生1,000件あたり101人(カンボジア保健省調べ)の子どもが5歳未満で命を落とし、そのうち1歳未満で亡くなる子どもが43人と報告されています。保健センターも予算不足のため、医師や保健スタッフ、設備の数や質が最低限の必要を満たしていません。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

事業地 カンボジア王国コンポンチュナン州

目的 妊産婦と乳幼児の死亡率の低減に貢献すること

対象 3つの保健センター(公立の医療機関)の周辺に住む女性と子どもたち

概要 保健センターの設備・機能の改善、保健スタッフの技術研修、女性やその家族への啓発活動

※カンボジアの保健センターは、人口1万人にあたり1カ所設置されることになっている公的医療の末端施設です。

外来、産前検診などに利用される検査室、分娩施設を備えています。

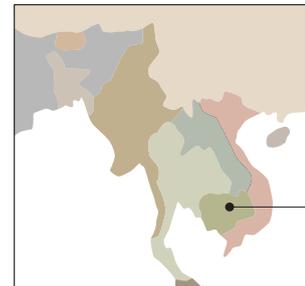
本事業は、母子保健サービスの整備と強化を目指して2010年より開始しました。これまでに、保健センター1カ所に分娩室と待合室を建設、感染症の危険を減らすために胎盤などの感染性廃棄物を処理する施設の設置を行いました。また、妊産婦への産前検診や緊急対応ができるよう、血圧計などの必要機材を支援しました。

引き続き、今年度は、3カ所の保健センターに、分娩の際に使用する清潔な分娩キット(ビニール手袋、石鹼、へその緒クランプ(臍帯を切るときに、臍帯を挟むためのクリップ)、消毒のためのヨード液)1,500セット、新生児蘇生のための備品、滅菌器などの整備を支援しました。さらに感染症予防のために清潔なトイレと、井戸の設置を行いました。

スタッフへの研修については、これまで、保健センターに勤務する助産師に対し、産前・産後健診の方法や、出産後の出血、緊急時の対処法、他の専門施設に搬送するかどうかの判断に必要な知識や技術などの研修を行いました。

今年度は、研修で身につけたそれらの技術が実際に使われているかどうかの調査を行い、研修を受けた助産師が適切な処置を行うことができていることを確認しました。

また、地域の人々と保健センターをつなぐ役割を担う93名の村落保健ボランティアに対し、産後健診やフォローの重要性について、再研修を行いました。その後、村落保健ボランティアは、31村の住民に向けて、保健センターでの出産の奨励、産前・産後健診および



カンボジア



保健センターで生まれたばかりの赤ちゃん

予防接種や栄養改善などについての啓発活動を集会所で行い、妊産婦の保健施設利用を向上させることができました。

現在、保健センターでの出産が343件と報告されており、昨年同時期の254件よりも大きく上回る保健サービスの利用となっています。しかし、地域では、自宅での分娩は依然多く、今後も、啓発活動を行うよう支援する予定です。



産前健診のために保健センターを訪れた妊婦たち



村での保健教育の様子



支援する保健センター外観

「以前は、出産中に何か起こったらどうしようと、とても不安でした」

カンボジアのコンポンチュナン州に住むスレイモムさん(29歳)は、3人の子供を持つ女性です。1人目と2人目の出産のときは、専門的な知識のある助産師などのサポートもなく、緊急事態が起こったときの準備もありませんでした。また、妊娠中も身体への配慮もなく、畑で働いていました。

その後、3人目の子どもを妊娠中に、ワールド・ビジョン(以下、WV)の事業が開始され、研修を受けた保健スタッフや村落保健ボランティアにより、サポートを受けることができました。また、保健センターで定期的に産前健診を受けるようになりました。「妊娠中は、よく休んで、きつい労働はしないこと、そして野菜や魚など栄養のあるものを食べるように、と温かいアドバイスをいただきました」とスレイモムさん。

第3子のラリンくんの出産後も、保健センターで産後健診を受けました。「生後6カ月までの母乳保育や、子どもの予防接種の大切さを学びました。野菜、豚肉、魚、卵などを入れて作る離乳食の調理方法も学びました」。

WVでは、母親と子どもがその家庭において十分なサポートを得られるよう、アドバイスを家族に対しても行いました。古い因習や無理解が母子の健康を損なうことがカンボジアでは少なくありません。しかし、スレイモムさんは、「主人は、3人目を妊娠しているとき、薪割りや水くみ、畑仕事などの私の仕事を手伝ってくれました。新しい知識とサポートがあることで、きっと私の子どもたちは元気に育つことができます」と、今自信を持って語ります。



スレイモムさんとラリンくん

担当者コメント:平本スタッフ

機材や施設の整備は短いプロジェクト期間でも達成できますが、人々がそれまでの自宅出産という慣習を変えて、保健センターを利用したり、保健専門家の指導に従って行動を変えたりするためには長い時間を要します。WVの地域づくりの取り組みはこの試行錯誤の積み重ねです。カンボジアの母子が健康に暮らせるように、地道な取り組みを続けていきたいと思えます。

ベトナム

支援地域の状況

目覚ましい経済発展が続くベトナムですが、交通の不便な山間部は、都市部に比べると貧困率は依然高いのが現状です。事業地のある北西部ディエンビエン省は、国内58省のうち3番目に貧困率の高い省（1日1ドル（約80円）以下で生活する人が全体の40%）です。貧困は、住民の健康にも大きく影響し、とくに妊産婦死亡率は、国平均出生10万件あたり69人のところ、同地域では110人に達しています。



支援対象地域の母子

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

事業地 ベトナム社会主義共和国ディエンビエン省ムオンチャ郡、トアンザオ郡

目的 妊産婦と新生児の健康改善

対象 山間地で暮らす少数民族の妊産婦

概要 保健医療施設の整備、保健スタッフの技術研修、妊産婦や住民への啓発などを通して、妊産婦の保健サービスの利用を普及させる

事業地では、多くの保健施設が、妊産婦ケアのための産科室や分娩室の数、機材が不十分で、感染の危険を防止するための廃棄物処理施設がなく、建物の老朽化により天井や壁や床が破損しています。また、保健スタッフの臨床技術の不足やコミュニケーション能力の低さなどにより、保健サービスの質の低いことも課題となっています。さらに同地域の人口の8割は少数民族で、女性の大半が初等教育さえ受けていないため、ベトナム語を話すことができません。そのため、保健サービスの重要性を理解できず、妊娠しても検診を受けることもなく、自宅での出産が今でも行われています。

WVはこのような状況を受けて、地域の保健医療施設を整備し、

妊産婦を保健施設へ搬送するための住民組織をつくることで、妊産婦の保健サービス利用の普及を目指します。医師、助産師や出産介助者に対し、妊産婦・新生児ケアに関する知識や技術の研修を行い、より適切な処置を施すことができるように支援します。

また、地域住民が、妊産婦の食事の栄養改善（鉄分などの摂取）や体調管理などの重要性を理解し、家庭で実践できるよう、行動の変化を目指して啓発活動を行います。

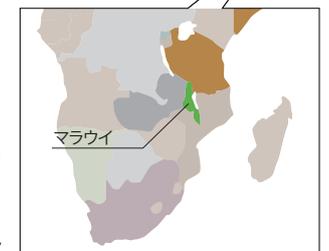
マラウイ

支援地域の状況

マラウイでの保健分野における大きな課題の1つは、妊産婦死亡率が高いことです。出生10万件中810件と世界168か国中160番目に位置し、これは、乳幼児の死亡率を高める一因ともなっています。

背景には、医療施設の不足、スタッフ不足や能力が十分でないこと、施設へのアクセスが悪いこと、緊急搬送システムが確立されていないこと、HIV/エイズ、マラリアなどの感染症の流行、妊産婦や家族の中で出産にともなう危険についての知識がないことなどがあります。

とくに事業地であるンチシ県は、山岳地帯に位置し、県病院1カ所、保健センター11カ所がありますが、施設で出産する妊婦は推定38.6%にとどまり、残りは自宅で専門知識のない伝統的産婆（以下、TBA）の介助のもと出産していると言われています。マラウイ政府は、医療知識のないTBAは、妊産婦の緊急時に対応できないとして、2007年よりTBAによる出産介助を禁止しましたが、今なお施設で出産する妊婦の増加は見られていません。



ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

このような状況に対応するため、現在行っている調査をもとに、5つの柱として次の活動を予定しています。

- ①啓発活動：妊産婦や、乳幼児の親などの保護者をメンバーとしたグループを組織し、母子保健についての知識を普及する活動を実施するほか、地域リーダーやTBAへの研修を行い、地域全体で安全な出産を推進します。
- ②医療従事者の研修：医療従事者が適切な母子保健サービスを提供できるようにするために、新生児・緊急産科ケア、性感染症予防、家族計画などについて研修を実施します。
- ③県内の医療施設整備：県病院1カ所、保健センター11カ所に適切な産科ケアを実施する体制を整えるために、産科棟、出産待機所、医療従事者施設、水道・電気の整備などを行います。
- ④通信・交通手段の改善：分娩異常時などの緊急時の搬送を適切に行うための救急車や無線通信システムを整備します。
- ⑤母子保健に関する情報管理システムの改善：情報収集能力の改善のために、情報管理データベースの改良などを実施します。

※ベトナムとマラウイの人々への支援につきましては、2012年9月現在、2013年度（2012年10月～2013年9月）より実施するための準備を行っています。上記の記述は、予定であり変更される可能性もありますが、皆さまからいただいた募金は、記述の母子保健事業のために、役立させていただきま

障がい児のための支援

アゼルバイジャン共和国

支援地域の状況

アゼルバイジャン政府によると、同国の障がい児数は5万人強と推計されており、その約半数は施設に入所しています。たとえ家族とともに暮らしていても、社会の偏見も根強いいため、自宅に閉じこもり教育を受ける機会ほとんどなく、就学機会を得たとしても、そのほとんどが特殊学校で教育を受けています。また、障がいの程度が軽く普通学級での学習が可能である子どもも多くいるとされていますが、学校側に受け入れる体制が整っていないため普通学校に行くことは難しい現状があります。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

2005年から、障がいを持つ子どもたちが自分たちの住む地域で近隣の子どもたちと共に普通教育を受けられるよう、いくつかの幼稚園および小学校での「統合教育」（軽度の障がいを持つ児童が普通学級で授業を受けられるようにすること）を支援してきましたが、2011年からは中等教育レベルでの支援を開始しました。

具体的には、アゼルバイジャン教育省職員が統合教育についてさらに知識を深め、自ら教員の育成や指導要綱の作成を行うことができるようトレーニングを行いました。トレーニング後は専門家の指導の下、実際に指導要綱を作成し、各学校で使用しています。

また、中学校は小学校と異なり、授業のレベルも高度になります。生徒一人一人のニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善するため、適切な指導をする必要があります。そのために、各学校にて、作業療法士、心理カウンセラー、言語療法士、理学療法士とともに、生徒のニーズ調査を実施し、個人別の学習プランを作成しました。この学習プランをもとに、教師が授業を進め、生徒の保護者が、学習の進捗状況を把握できるようになりました。

それ以外には、より充実した放課後を過ごして欲しい、また過ごしたいという声をうけ、音楽やフェイスペイント（顔に楽しく絵の具を塗って遊ぶ活動）を楽しむイベントを実施しました。このイベントはプロの歌手とフェイスペイントアーティストの協力を得て実施され、社会に向けて、統合教育の必要をアピールすることもできました。

アゼルバイジャン



教育省職員へのトレーニング



イベントでフェイスペイントを楽しむ子どもと、担当の数崎スタッフ(中央左)

「学校に通えるようになって、夢を持つことができました」

—アイタジちゃんの新しい日々—



アイタジちゃん

アイタジちゃんには聴覚障がいがあるため、教育を受ける機会さえありませんでしたが、その後、WVの支援によって学校に通い始め、今では、周りの子どもたちとも打ち解け、学校生活を楽しんでいます。それまで、同年代の子どもたちとの接点がなかったアイタジちゃんは、新しい世界が開け、将来は美術の勉強がしたいと、夢を語ってくれました。これまで、障がいを持つ子どもたちが将来の夢を語ることは考えられないことでしたが、WVの支援により、未来へ希望を持てるようになったことに教員、スタッフ一同喜びを感じています。

担当者コメント：数崎スタッフ

このプロジェクトを通じて、障がいを持つ子どもたちやその保護者が、将来に希望を持てるようになる姿を見てきました。

障がいを持つ子どもたちが、生きがいを感じる生活を送れるようにするには、学校だけではなく、社会に受け入れられ、社会との関わりを強くしていく必要があります。これは、彼らを一員として受け入れる社会にとっても重要な変化です。今後も、一人でも多くの障がいを持った子どもが、他の子どもと同じように夢を持ち、自らの意志で生き方が決められる日がくることを願ってやみません。

※上記文中の数値データは、とくに断りのない限り、ユニセフ「世界子供白書2012」など国連組織による報告書等を出典としています。

●募金についての問い合わせ先

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

Email:dservice@worldvision.or.jp

<http://www.worldvision.jp>

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー（政府や市民への働きかけ）を行う国際NGOです